

1月給食だより

令和8年1月
板橋区立上板橋第一中学校



板橋区食育キャラクター

新年を迎え、いよいよ学年最後の学期がはじまりました。健康管理に一層注意が必要な時期です。基本の手洗い・うがいを徹底し、バランスのとれた食事・適度な運動・十分な睡眠を心がけて体調を整え、感染症を予防しましょう。

◆◇7年生が考えた献立◆◇

【13日(火)】「季節に合った北海道の郷土料理」

「しらす入りわかめごはん・鮭のチャンチャン焼き」

いももち・かぼちゃ入りけんちん汁」

7年1組 生徒考案

〈生徒が考えたポイント〉

- ・季節の食材を使った北海道の郷土料理にしたこと
- ・栄養素全てをとれるようにしたこと

【21日(水)】「受験応援メニュー」

「ガーリックトースト・玉ねぎとじゃがいものズッパ」

元気サラダ・チョコプリン」

7年2組 生徒考案

〈生徒が考えたポイント〉

- ・ズッパはレストランの料理を参考にしました
- ・元気サラダは、体調万全に受験を迎えられるように願いを込めました
- ・勉強には糖分が必要なので、チョコプリンを入れました



今月の板橋ふれあい農園会給食

板橋区産の長ねぎが届きます！

1月22日(木)の「和風卵焼き」「肉豆腐」で板橋区の農家さんが育ててくださった長ねぎを使用します。

生産者の顔が見える給食を推進するため、板橋ふれあい農園会のみなさんが育ててくださった長ねぎを全小中学校に届けるっちい！

◆◇1月の給食目標：
給食のねらいや歴史を理解して食事をしよう◆◇

学校給食の歴史

| 年代 | 西暦 | できごと | |
|----|------------------------------|------------------------------------------------|----------------------------------------------------|
| 明治 | 22年 1889 | 山形県鶴岡町(現鶴岡市)の大督寺という寺の中に建てられた忠愛小学校で弁当が無償で提供された。 | ここが「学校給食発祥の地」とされています。 |
| 大正 | 3年 ～7年 1914 ～1918 | 第一次世界大戦 | その後、学校給食が全国に広がります。 |
| 昭和 | 14年 ～20年 1939 ～1945 | 第二次世界大戦 | 食糧難が続き、給食も中断されてしまいました。 |
| | 21年 1946 | アメリカのLARA(アジア救援公認団体)から給食物資が贈られた。 | 戦後の食料不足で、子どもたちの栄養状態が心配されたことから、学校給食の再開を求める声が高まりました。 |
| | 22年 1947 | LARA物資を使い給食再開。 | 昭和27年には、ユニセフからも援助を受け、脱脂粉乳が提供されました。 |
| | 25年 1950 | アメリカから小麦粉が贈られ、パン・ミルク・おかずの完全給食開始。 | |
| | 51年 1976 | 米飯給食開始。 | 献立の内容も豊かになり今の給食の形式が確立していきました。 |

参考：
文部科学省ホームページ「全国学校給食週間について」
一般社団法人全国学校給食推進連合会ホームページ「学校給食の歴史」

時代の流れと共に「学校給食」は変化をしつづけてきました。いつの時代の給食にも、子どもたちを大切に思う気持ちがこめられています。そして、学校給食は食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるために重要な役割を果たしています。

